

アンケートに寄せられた声をもとに共産党上越 地区委が市に予算要望……吉川区については9項目

日本共産党上越地区委員会（阿部正義委員長）は26日、上越市に対して予算要望書を提出しました。これは合併前上越市や吉川区、頸城区などで市議会議員など進めてきたアンケート調査や地域懇談会で出された市民の皆さんの声をまとめたものです。吉川区については、新潟県に対する働きかけ分を含めて9項目となっています。（要望書全文はホームページに掲載予定です）



対応した中川副市長との懇談では、要援護者に対する灯油代補助、私立高校生に対する学費補助、妊婦健診への公費負担拡大、国保税をめぐる財政状況などが話題になりました。

【要望書中の吉川区分】

1. 河川関係

① 2級河川（大出口川、吉川、平等寺川、入河沢川、玄僧川）の草刈りの時期を早めること。また、雑木の除去、河床掘削の促進について引き続き県に働き掛けること。

2. 道路関係

① 県道新井柿崎線の江島新田から高橋新田間の防雪柵（固定式）設置を県に働き掛けること。

② 県道大潟高柳線の平等寺と坪野間を広げるよう県に働き掛けていただきたい。

③ 県道川谷十町歩線の山口から国田間、拡幅と歩道設置を県に働き掛けていただきたい。

④ 道之下から頸城区へ抜ける県道の改良工事を県に働き掛けていただきたい。特に、玄僧地内は

狭すぎて危険であるので、早期にお願いしたい。

⑤ カーブミラーを早急に設置していただきたい（稲場先住宅竹直寄り出口の反対側、丸滝橋から名木山に向かつて、名木山集落に入る一歩手前の大きなカーブ）。また、山方地内の三叉路のカーブミラーについては、車が大きく見えるよう大型化などの工夫をしていただきたい。

⑥ 通学児童生徒の安全を守るため、防犯灯を増設していただきたい。（吉川中学校下から山口に至る間、長峰から原之町）

③ パラグライダー基地に至るアクセスについての案内標識が少ない（特に県道川谷十町歩線）ので増設していただきたい。

④ 公園の遊具を拡充していただきたい。

党派を超えた働きかけで農業集落排水災害復旧事業補助率80%に

中越沖地震で被災した農業集落排水施設（管路含む）の災害復旧事業の補助率が50%から80%にかさあげされました。

市議会は9月、この補助率引き上げを含め、被災者支援強化を求める意見書を全会一致で採択。山岸議長は木浦市長とともに上京し、政府関係機関に要請してきました。自民党から共産党まで各政党は、この問題で政府に働きかけを行いました。

今回の補助率かさ上げの結果、吉川区の同施設の災害復旧だけでも、市の財政負担は約2億円軽減されます。（写真は市議会・農業農村議員連盟の視察）



春よ来い 第八九回 ぎっくり腰

恐れていたことが現実になりました。ぎっくり腰が再発してしまったのです。金曜日の朝、父の着替えを手伝っていたときでした。電気毛布による低温やけどで父の右足の外側が「赤めどこ」状態になっていて、腰を長女が発見、薬を塗るといので父の体を後ろから抱き上げようとした瞬間、腰がぐずぐずとなくなってしまいました。

私が初めて腰を痛めたのは、三〇年ほど前のことです。耕運機にキャタピラをつけた雪上運搬車で牛乳缶の運搬作業をしていたときでした。当時から村屋まで二〇分くらいはかかったでしょうか。雪が降ったある日のこと、旧源農協のそばにあった集乳場、といっても、水槽があるだけの施設でしたが、そこに着いて、牛乳缶を下ろし始めたばかりのタイミングで大型トラックがやってきて、運搬車を移動しなければならなくなりました。急いで牛乳缶を下ろそうとしたのがいけませんでした。五〇キロもある缶を持ったときに、腰がグニャグニャしてしまい、まさに腰砕けとなりました。

初めて腰を痛めたときのつらさは、いまでも忘れません。トイレでしゃがむことができなくなり、咳でもしようものなら腰に痛みがズンとききました。車で降り降りするときもそう。何よりも切なかったのは、腰が痛くても乳しぼりをしなければならなかったことです。腰を中途半端におろし、乳しぼりをしようとすると、牛の方も、いつもと違う様子に警戒心を持ちました。そして搾った牛乳は、どんなに腰が痛くても缶に入れて運び、水槽で冷やさなければなりませんでした。

以来、物を持つときには腰を痛めないことを意識するようになりました。一回、腰を痛めると、何日も仕事ができなくなるばかりか、立ちねまり、歩行など、まともにできなくなるからです。重いものを持つときは、まず腰を入れて、腰をふらつかさないようにしました。

それにもかかわらず、酪農をやっていたときだけでも、少なくとも五回は腰を痛めた記憶があります。酪農家で腰を痛める人は多く、いかに早く治すか、みんな大きな関心を持っていました。どここの整体師は一発で治してくれる、いろいろ当たったけれど最後は身近なところが一番良かったなどの情報を交換し合ったものです。

困ったのは、いったん腰を痛めると、ちよつとしたきつかけで腰を痛めることでした。重いものを持つときは腰を意識しましたから、そう何回もなかったのですが、むしろ、軽いものを持つときの方がなりやすかった。風呂に入っていて、洗い場にある洗面器を取ろうとしただけでぎっくり腰になったこともありま。

さて、数年前に酪農をやめてからは、重いものを持つてぎっくり腰になる心配はほとんどなくなりました。それで、腰の痛みからはずつと解放されるものと思っていたのですが、一年半ほど前から父が要介護状態となり、再び、腰のことを意識するようになりました。何人もの人に「おまんちのじいちゃん、大柄で骨太だすけ、きいつけないや」とも言われていました。だから、また、ぎっくり腰になりやせぬかと注意していたんですが。

再び腰を痛めた日。市議会は私の所属する常任委員会でした。佐渡汽船の小木直江津航路問題で質問に立ったものの、腰の痛みは増すばかりでした。家に帰ってもベッド中心の父の生活は変わりません。私はささやかな介護の補助しかできませんが、父が介護を必要とするうちは、なんらかの手助けをしてやりたいと思います。早く腰の痛みを治して、自宅でできる介護の基礎知識ぐらいは身につけておかないと……。

妊婦健診の公費負担拡大を予算要求に盛り込みました

アンケートに寄せていただいた声の中に「産婦人科の診療のお金は保険が適用されません。もう少し助成してください（現在無料券5枚です）。少子化と言われているのはお金がとてかかるからです！ 子どもを育てやすい環境づくりを望みます」というのがありました。

さっそく、市役所などで調べ、検討した結果、私ども日本共産党市議団で市長に提出する新年度予算要望書の中に盛り込むことにしました。具体的には公費負担の回数を15回に増やしてほしいとしました。ちなみに、お隣の糸魚川市の場合は、15回分、公費負担しています。

上越市では、妊娠・出産にかかる経済的負担を軽減し、積極的な妊婦健康診査の受診を図るため、今年か



ら、公費負担を5回に拡充したばかりですが、母子健康手帳に書いてある通り受診するだけでも、15回前後の回数となります。1回につき、最低6165円かかりますから、たいへんですね。

私どもの市議団では、少子化対策の一環として妊婦健診の公費負担拡大が重要だととらえ、予算要望だけでなく、常任委員会審議や一般質問でもとり上げてまいります。

稲場先住宅、耐震診断へ

今年度の一般会計補正予算に、公営住宅の耐震診断調査委託料が計上されました。

この中には吉川区の稲場先住宅も対象に入っています。予算額は浦川原区の住宅分も含め600万円となっています。



日米共同訓練反対上越地域の会（嶋田五郎会長）は25日、陸上自衛隊高田駐屯地を訪れ、来月下旬から一ヶ月間予定されている日米共同訓練をやめるよう申し入れました。これには、私も参加してきました。（写真）